

PIWU 中国

第123号

2023年11月28日発行

発行⇒ 郵政産業労働者ユニオン
中国地方本部

Tel&Fax⇒ 082-244-7719

piwu-chugoku@abelia.ocn.ne.jp

http://www.piwu-chugoku.net/



郵政産業労働者ユニオン中国

中国地本『みらい講座』ひびく

— 知は力、将来を見すえて

郵政ユニオンの次世代を担うなかまに向け今年11日、講師に中央本部吉田実 副委員長と樋口 絡 執行委員(組織担当)を招き中国地本「みらい講座」が開催されました。

挨拶で地本・小野委員長は「支部間の交流をしたい／経験が浅い仲間を集まりを：との声にこたえ企画した。講座で感じたことを職場にもち帰り活かしてほしい」と述べ、待ったなしの世代交代を前にした若手への期待感を覗かせました。

経験値から語られる

組合の「値打ち」

講師の吉田副委員長は

「そもそも郵政ユニオンとは」と題して、「連合」の誕生(1989年)以降郵便局に関わる労働運動の歴史を紐解き、資料を元に「なぜユニオンはあり続けるか」その意味を語られました。また自身の運動歴と職場経験から「宣伝・発信」の大切さや機関紙発行時に目を引く「見出し」の重要性。また会社の施策や方針に対し「なぜ?」「どうして?」と問いかける「問題意識」が要求につながる職場を改善する原動力であることを強調されました。

「自分にもできる」「いつからまず一歩」

かわって登壇した樋口中執は郵便需要と経営資源の先細り／会社削減に

よる社員数の先細り／経済情勢と平均賃金の先細りの中で「非正規雇用」と低所得者が、また大企業や富裕層の資産・内部留保だけが増え格差の拡大していく矛盾があらさまになっていく事実：そうした中だからこそ、労働組合の存在は輝くものと説きます。



自己紹介される樋口 絡 中央執行委員

二つのキーワードを示されました：「ドメイン」から一歩ずつ「そして」「コミットメント&エンパワーメント」をと。労働運動の中軸に居た先輩たちが去りゆく中でも組合が持つ真のチカラ(ストライキ権等)を一人ひとりが再認識し使いこなすことで「自信をもち」「互いを力づけ」「なかまを増やす」行動に踏み出すよう促し、講義を締めくくられました。

参加者たちは—

- ・ 組合の歴史と必要性を学べた
- ・ 組織の現状と展望を把握できてよかった
- ・ ユニオンの存在意義を再確認した
- ・ 広がる格差、組合活動の大切さを実感できた
- 等の感想を胸に散会しました。

その上で、樋口中執は